

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 NPO 法人横浜シュタイナー学園
 種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()
 住所 〒226-0016
横浜市緑区霧が丘3丁目1-20
 E-mail : gakuen-info@yokohama-steiner.com
 Website : http://yokohama-steiner.com
 児童生徒数：男子 名 女子 名 合計 名
 児童・生徒の年齢 6歳～15歳

2. 担当者 ※公表しません

職名：英語専科教員
 氏名：浜本マヤ (女)
 E-mail：gakuen-info@yokohama-steiner.com

※学校の共用メールアドレスをご記入ください。共用メールアドレスがない場合、個人メールアドレスでも可。

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

特定非営利活動法人横浜シュタイナー学園のESDへの取り組み

横浜シュタイナー学園のESDの取り組みは教育活動全般に渡りますので、ここでは最近に動きのあった出来事に絞って報告いたします。

■ 自国文化理解に関する活動

●5年生は、縄文時代の学びのなかで、粘土に砂を混ぜ込み、本格的な縄文土器をつくりあげた。歴史埋蔵文化財センターの協力を得て、野焼きで焼き上げた。焼き上がった土器を家庭に持ち帰り、土器で料理をした生徒もいた。

●6年生は歴史の学びの一環として京都・奈良旅行を行っている。訪問した歴史文化施設の担当者から「生徒の関心のもち方が深い」という言葉をいただきました。

●7年生の歴史の学びでは、室町文化の体験として狂言に取り組んだ。

●9年生は、竹籠編み細工、ゆかた、じんべえづくりなどを体験した。

●9年生卒業プロジェクトでは以下の研究を行い、発表した生徒がいた。

- ・「韓国と日本のファッションの違い」
韓国と日本の若者ファッションの比較研究を行った。
- ・「マクロビオティック（和食）の知恵」
マクロビオティックを切り口にその原点にある和食文化の知恵を探った。
- ・「自転車旅行」
自転車による日本横断の体験報告。
- ・「日本の文化 江戸町民から生まれた化政文化」
江戸文化の研究とあわせ、本格的な木版画の浮世絵（赤富士）を制作。
- ・「津軽三味線の歴史と魅力」
津軽三味線をめぐる文化史の研究と演奏実演。

■ 国際理解教育に関する活動

横浜シュタイナー学園では、世界史の学びを通して世界地理と多様な文化の基礎を理解し、その土台の上に高学年では現代史にも触れていきます。また、英語と中国語の2か国語を1年生から学び、言語文化を通して国際感覚を育てています。1年生からの積み上げにより、高学年にもなるとコミュニケーション能力もかなり上がってくるため、ここ数年、海外との交流も積極的に行うようになりました。その活動を、以下に列挙いたします。

1. 海外の学校との文通（英語科）

●6年生は、韓国の Purunsup Waldorf School 及び中国の Chengdu Waldorf School と英語で文通を始めた。韓国からは返事がきて2度目の手紙を出したところ。英語の時間以外でも、6年生は韓国の国のなりたち・文化について学園の体育教師でもある在日3世の韓朱仙（ハン・チュソン）先生から話を聞く機会をもった。自分たちの名前をハングルでどう書くか教えてもらい、早速2度目の手紙にしたためていた。

●7年生（中学1年生に相当）は、アメリカのオレゴン州ポートランドにあるシーダーウッド・ウォルドルフ・スクールの7年生と手紙の交換を始めている。この学校では、生徒たちは外国語としての日本語を学んでいる。

●8年生（中学2年生に相当）は、オーストラリアのオラーナ・ウォルドルフ・スクールと文通をしている。こちらの学校でも日本語を外国語として学んでおり、返事は日本語で届く。生徒たちは、外国人の書く日本語に初めて接し、外国語としての日本語の難しさを初めて理解したようだった。また、校庭にカンガルーが来るといような自然にあふれるオーストラリアの様子に触れて、「いいなあ」と言っていた。写真も送られてきて（こちらからも自分たちの写真を送った）、同じ年齢でもずいぶん大人っぽいという感想を持ったようだ。

●9・10年生は、昨年度スイスの学校と文通を試みたが、立ち消えになってしまったので、今年度は8年生と同じ、オーストラリアの学校の10年生との文通を行っている。

2. ゲストティーチャーによる授業（英語科）

●2013年5月9日 泉田幸絵さん（フェア・トレード販売） 9年生
高校生でニュージーランドに留学し、日本のことをちゃんと知らなければと思った泉田さんは、大学で日本史を学び、また英国の大学にも1年留学。卒業後はピースボートで世界一周の旅に出、現在はアフリカの人々とフェア・トレードの製品を販売することでつながっているという。流暢な英語での話しぶりと明るい泉田さんの語りかけに、生徒たちは自分たちも英語を駆使して世界のいろいろな人と話してみたいという感想を抱いたようだ。

●2013年5月20日 Anja Light さん（環境NGO ナマケモノ倶楽部） 9年生
アンニャ・ライトさんは、ナマケモノ倶楽部というNGOの共同代表をされている環境活動家であり、シンガー・ソングライターでもある。オーストラリア在住。若い頃、ボルネオでの森林伐採の様子に衝撃を受け、その木材の最大の輸入国である日本に来てみたというのが最初で、それ以来何度も来日し、さまざまな所で環境にまつわる話を自作の歌とともに届けている。オーストラリアの自宅では、廃材を使った自作の家に、二人の子どもと馬とともに住んでいる。そんな生活の様子も、スライドを使って見せてくれた。ギターを抱えて教室にやって来た彼女は、素敵な歌声も聞かせてくれた。生徒たちは、話を聞いたあ

と、英文で感想のお手紙を書いた。以下、生徒たちの感想からの抜粋。

Dear Ms. Anja Light

Thank you for coming to speak for us.
Your speech was interesting to me, because it was easy to understand. As you said, our life is full of temptations. But I want to change little by little gradually.

Thank you for your kindness, wonderful speech and great singing! I really enjoyed everything. I thought we should save the environment. If we save it together we can stop global warming!

Yesterday thank you very much いろいろな song が very good. 僕も、できるかぎりの save を心がけます。

I liked song and guitar! It's very good!! It's great that you built your house by yourself!

●2013年5月22日 ジョン・ビリングさん（国際的ライヤー奏者）
イギリスのライヤー奏者によるコンサートを、低学年から高学年まで楽しんだ。アイルランド最後の吟遊詩人と呼ばれるターロック・オキャロランの作品など、言葉だけでは味わえない異文化の香りをたっぷり堪能した。

●2013年7月12日 Dawn MacLellanさん（文化人類学教授） 9年生
当学園の保護者でもあり、英語と文化人類学の大学教授でもあるマクレランさんは、若い頃に外国語指導助手として岡山に滞在したときのことを語ってくれた。日本語がまったくできなくて、カルチャーショックもあったけれども、日本がとても好きになったことなどを、楽しく語ってくれた。首都圏に住む生徒たちにとっても、地方の暮らしはあまり実感がわかなかったようだが、かえってマクレランさんと同じ気持ちになっていたようだった。そして、アメリカ人の彼女がどのように日本の文化に出会ってショックを受けたかという話を聞いて、外側から見た日本の文化という視点に気がついたようだった。

●2013年10月1日 David Andersonさん（劇団主催者）
6・7・8年生は、David Andersonさんの演劇ワークショップを受けた。演劇は社会性の基礎を養うという考えのもと、個人やグループで様々なボディランゲージを駆使した表現にチャレンジした。このワークショップに限らず、学園の教育の随所で演劇的要素が活用されている。

3. 中国語による演劇上演

●プロの京劇俳優にアドバイスをいただきながら、孫悟空の中国語劇上演を5年生が行った。

4. 韓国との歴史対話（教員の国際交流）

国際理解教育の実践、とくにアジアの国際理解教育においては、まず教師自身が国と国と間に存在する歴史的な認識の溝をどのように越えていくかについて、自らの問題として捉えておく必要があります。今年の春に韓国で開かれた国際教育会議の場に設けられた日韓対話において、私たちはたいへん深い学びを得ることができました。これはシュタイナー学校の教員のために開催された大会でしたが、ユネスコスクールのネットワークでも可能なチャレンジとして、ぜひ共有させてください。以下、ごく簡潔に報告いたします。

●日韓の教員による歴史対話（韓国 2013年4月28日-5月4日）

アジア全域のシュタイナー学校教員の研鑽を目的として韓国で行われたアジア・ヴァルドルフ教育者会議に、横浜シュタイナー学園からも6名の教員が参加した。事前に韓国側から「今回の会議の間に、日韓の教員で両国の歴史問題・歴史教育について話し合いの場をもちたい」との投げかけがあった。「日本は世界に向けて公式に謝罪すべきである」という勢いで提案だったが、在日三世である当学園の教員・韓朱仙（ハン・チュソン）の深い語りかけが呼び水となって、双方の教員があたたかく気持ちを通わせる場となった。

日本からの参加教員約30人と、韓国の教員約50人で車座になり、それぞれの想いを話したあと、「過去と他人は変えられないが、自分と未来は変えられる。私たちからあたたかい関係をつむぎだし、未来を変えていこう！」という衝動をひとりひとりが受け取った。最後はみんなでハグをかわし、笑顔で今後の交流を約束した。

日韓の、そして日本とアジアの平和の架け橋となることをライフワークとしているハン教諭の強い思いが、私たちを国と国でなく、人と人として出会わせてくれた。対話は今後も継続することが約束され、2年後には日本で開催する大会で再会する予定である。

■ 地域素材の活用

地域素材の活用としては、学園に隣接して広がる横浜一の広大な里山（新治市民の森）の活用が大きなテーマとなっています。

●谷戸田での米づくり

谷戸田を守る地域のNPOと住民の協力を得て、泥まみれで代掻きから田づくりを体験し、収穫した稲を自ら脱穀して食し、家づくりの授業でつくった家の屋根を収穫した後の稲わらで葺くなど、日本の稲作文化をまるごと体験する授業を行っている。（3年生）

●植物学の生きた学習材料として

三保市民の森、新治市民の森は、日本有数のシダ類の宝庫だと言われている。5年生の植物学では、森のなかで羊歯や菌類の観察を行い、学びに活用している。

●川の源流探索

地理の授業では、里山に源をもつ梅田川などの源流を訪ね、「つながり」の面白さを体験している。(4年生)

●里山の産物を利用した工芸体験

里山を保全している NPO のメンバーの協力を得て、実生活でも使える美しい竹籠を編む授業を開催した。(9年生)

●里山保全の学び

大都市にぽつりと残った都市型の里山の特殊性（オーバーユース問題）を、里山を守る NPO の方から学びながら、貴重な地域素材として大切に活用していくための里山研修を行った。今後、学びを授業に採り入れつつ、NPO との共同の可能性を探っていきたいと考えている。

■ その他

● 3年生の家づくり（実際に小さな家を建てる）、職人（鎌倉彫、パン工房、大工、左官など）の仕事の学び。

● キング牧師のスピーチを英語専科で取り上げ、背景を学びながらスピーチした(9年生)

● 小水力発電についての学び(9年生)

● DEAR 教材によるパーム椰子プランテーション学習のワークショップ(9年生)

等々。



ユネスコスクール活動グループ 主催
教職員・保護者向け研修会

先生&親子
みんなで行こう

早春の里山を訪ね、学ぶ 里山研修会

横浜一の新治市民の森を体験しよう

楽しいピクニックや稲作の授業、植物学や地理のエポックでも子どもが訪れる、横浜市随一の里山・新治市民の森。

都市部に残された多様な動植物の宝庫であるこの里山は、利用過多となりがちで都市型の里山を市民と行政が一体となって保全する、新しいタイプの里山でもあります。そんな里山の特徴と魅力、保全活動の歴史、利用にあたっての配慮などを、いはいはる里山交流センターの吉武美保子さんにお話いただき、同ボランティアの方に里山をご案内いただきます。

あなたがまだ知らない新治の森の魅力と出会う一日。ぜひご参加ください！

3月22日(土) 9:00 ~ 15:00

霧が丘校舎集合→いはいはる里山交流センター解散

9:00 霧が丘校舎集合 → 森を抜け、いはいはる里山交流センター

10:00 吉武美保子さん里山講座@旧奥津邸

子どもたちは旭谷戸広場または長屋門で遊ぼう(見守り付)

12:00 ランチ(お弁当は各自ご用意)

13:00 早春の里山を歩こう、散策会(ガイド付)

15:00 里山交流センターにて解散

- ★参加費無料(寄付歓迎)
- ★定員：おとな 30名/学園児童と弟妹 20名(5才以上)
- ★お申し込みは学園事務局へ
定員に達し次第締め切ります。

- NPO 法人新治里山「わ」を広げる会
NPO 法人横浜シュタイナー学園共催事業

吉武さん
から

大都市の
里山は未来へつな
ぐたからものです。
みんなで大切に見守
り育てていきま
しょう。



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



Member of
UNESCO
Associated
Schools

横浜シュタイナー学園は2011年1月、パリのユネスコ(国連教育科学文化機関)本部よりユネスコスクールとして認定されました。